

AOR® © 2010-2015 AOR, LTD.
All rights reserved.
www.aorja.com

※ 本説明は、ホイール付2ボタンマウスを使用しての操作です。マウスを使用しない（タッチパッド、トラックパッド、グライドパッド等のみ使用の）構成でご使用の場合は動作が多少異なりますのでご注意ください。

※ 参考：ホイール付きマウスの代わりに、タッチ ジェスチャ対応のタッチパッドをお使いの場合は、タッチパッドが使用できる状態で、タッチパッドの表面を2本の指をそろえて前後に動かす（縦スクロール）動作などの方法で、マウスホイールを回す動作と同様の操作が可能な場合があります。詳しくはお使いのPCの取扱説明書等をご参照ください。

AR2300 コントロールソフトウェア操作チャート（2）

AR5001D AR6000共通

取扱説明書・ヘルプを必ずお読みいただき、本チャートをご利用ください。

ウォーターフォール

ウォーターフォール表示は、時間の経過に伴う信号強度の変化を示します。色は信号の振幅に応じて変化します。

スペクトル

スペクトル表示は、指定の周波数範囲や受信周波数の状態を視覚的に確認することができます。

Ctrl1 (Sメーター)



Ctrl2 (モードなど)

● VFO

受信周波数、ステップ、アッテネータなどの状態を保持したVFOモードに入ります。ボタンをクリックするつど、4つのVFOモード(VFO-A～D)を切り替えます。

● SEARCH

あらかじめ設定した周波数範囲を指定の周波数ステップで信号のある周波数を探すサーチモードに入ります。ボタンをクリックするつど、次のサーチバンクに切り替えます。

● SCAN

メモリバンクに登録した周波数から信号のある周波数を探すスキャンを開始します。ボタンをクリックするつど、次のメモリバンクに切り替えます。

● S.SCAN

セレクトメモリ設定されたチャンネルから信号のある周波数を探すセレクトスキャンを開始します。40メモリバンク、100セレクトスキャンチャンネルまで設定できます。

● L.SCAN

現在、MEMORYタブに表示しているチャンネルから信号のある周波数を探すリストスキャンを開始します。サーチボックスで検索すると検索結果のチャンネルからスキャンできます。

● MONI

クリックすると一時的にスケルチを0(オープン)にします。これにより信号レベルに関わらず音やノイズが聞こえます。もう一度クリックすると、以前のスケルチレベルに戻ります。

● +MEM

現在受信中の周波数をメモリチャンネルに登録します。バンク、チャンネル、モード、アンテナ、RFアンプとアッテネータの設定を含みます。

● +PASS

スキャンまたはサーチで、受信中にこのボタンをクリックすることで、その周波数をサーチパス周波数として登録します。

● OFFSET

オフセット周波数は、キーボード入力してスペースバー(空白キー)で有効になり、メイン周波数と同時に受信できます。オフセットダイヤルでオフセット周波数を調整するには、このボタンをクリックします。再度クリックすると、もとのメイン周波数のみに戻ります。IFフィルタ100kHz未満の場合に使用でき、メイン周波数の±5MHzの範囲で設定できます。

● DUAL

クリックで、25MHz未満と25MHz以上のバンドは同時に受信できるデュアルバンド受信モードになります。音量バランスは、Main Controlパネルの3桁のAF表示を左クリックして設定できます。

● CYBER (AR5001D/AR6000のみ)

クリックで、CYBER SEAECHが始まります。

● Antenna

[PRG]ボタンで、あらかじめ Antenna Settingタブでプログラムされたとおりにアンテナ1～2を自動的に切り替えます。[1] [2]ボタンで、手動で選ぶこともできます。([3] [4]ボタンはオプションのアンテナ切替器で使用できます。)

● Mode (Auto IF Band) / Mode

[AUTO]ボタンで、受信周波数に応じて復調モードとIFフィルタバンド幅が自動設定されます。その他の「Auto IF Band」内のボタンでは、その復調モードへの切替と同時にIFフィルタバンド幅が自動設定されます。「Mode」のボタンは、復調モードのみを選択するため、IFフィルタバンド幅は手動で選択してください。

クリックで、デュアルバンド受信モードになります。25MHz未満と25MHz以上のバンドを同時に受信します。

クリックで、オフセット受信周波数を調整できるようになります。再度クリックするとメイン周波数に戻ります。IFフィルタ100kHz未満の場合に使用でき、メイン周波数の±5MHzの範囲で設定できます。

現在のメモリチャンネルやデータベースなどの登録とソフトウェアの設定をファイルに保存します。メモリチャンネルなどの登録変更やソフトウェアの設定を変更された場合は、クリックして保存してください。

Ctrl3 (AF, RF, SQLなど)

● Step

青色のメインダイヤルやキーボードの[←][→]矢印キーの操作で受信周波数を変更する時の周波数の変化量を設定します。

● AF Gain

スピーカとヘッドホンの音量をスライダーで調節します。

● Attenuator and RF Amp.

RFアンプ：ON / OFFとアッテネータ:0, -10, -20dB、もしくは、AUTOから、スライダで選択します。選択状態は、Main Controlウィンドウの表示で確認ください。

● AGC

AGC機能は、フェージングなどで受信信号強度が変化していても音量を一定に保つように受信部のゲインを自動調節します。時定数の異なる [Fast][Mid][Slow]と、AGCレベルをスライダで調節する[MANUAL]から選択します。

● SQL(レベルスケルチ)

レベルスケルチのしきい値をスライダで調節します。スケルチは、信号を受信していないときにスピーカからのノイズ音を抑止します。

● Voice SQL(ボイススケルチ)

ボイススケルチは、音声信号を受信した時だけ受信音が聞こえる(スケルチを開く)機能です。チェックボックスがONで有効、Levelで感度、Delayでスケルチが開くまでの遅延時間をスライダで調節します。

● IF Band

10段階のIFバンド幅フィルタからスライダで選択します。設定値は、Main Controlウィンドウの表示で確認ください。

● IF Shift

IFシフトは混信を避けるためにIF通過バンドの中心周波数を±1200Hzの範囲でシフトします。設定値は、Main Controlウィンドウの表示で確認ください。

● Span

スペクトル表示のバンド幅を 0.8MHz～10MHzで調整します。設定値はスペクトル表示の左上の表示で確認ください。

● Calc

スペクトルの最大値、または、平均値を計算して表示します。MAX(最大値)：スイープごとに計算してスクリーンに表示します。AVR(平均値)：計算期間の信号を平均化するため、信号の変化に対して安定したパターンを表示します。

● Peaks

リアルタイムに、表示中のスペクトルの中の最も強い信号を見つける機能です。「No. of Peaks」：表示するピーク数を最大10まで指定できます。非表示には0を指定。

「Threshold Level」：スライダーでしきい値を設定できます。[MAX]ボタンはスペクトル内の最も強い信号、[LEFT][RIGHT]ボタンは、設定したしきい値を超える左または右となりのピーク周波数に移動します。

「Move Offset Frequency」チェックボックスをチェックすることで、オフセット受信でオフセット周波数がピークに応じて移動します。

● Water Fall Speed

スライダで、ウォーターフォール表示の移動速度を調整できます。

● Water Fall Color

スライダで、ウォーターフォール表示の信号強度(-30～-110dBの範囲)に対する表示色を調整できます。

Ctrl4 (FFT表示)

・ [File]-[SD Card]メニュー (SDカード)

● [Update]ボタン(ファイル一覧を最新に更新)
このボタンを押すと、受信機に挿入したSDカードに保存されているファイル一覧を左の枠内に表示します。(SDカードへの録音中やSDカードに保存されている録音ファイルの再生中は動作しません。)(英数文字以外の文字によるファイル名は正しく表示できない場合があります。)

● [DELETE]ボタン (選択したファイルを削除)
左の枠内に表示したファイル一覧からひとつのファイルを削除したい時に、そのファイルを選択してこのボタンを押します。次に開く確認画面で[OK]ボタンを押すとただちに削除します。(注意：このファイル削除動作は取消しできません。)

● [●]ボタン (録音)

受信機に挿入したSDカードに受信音を録音するときはこのボタンを押します。(ファイル名は自動でつけられます。数字8文字、拡張子 WAV)スケルチが開いている間の受信音のみ録音するには[レ] SQL Skip にチェックをつけてから、このボタンを押します。(スケルチが閉じている間は、録音が一時停止し、録音ファイルが大きくなりません。)

● [▶]ボタン (再生)

SDカードにある録音データ(ファイル拡張子 WAV)を再生するときに、目的のファイルを選択してこのボタンを押します。再生音声は受信機から出力されます。

● [■]ボタン (停止)

録音または再生を終了するときに、このボタンを押します。

Ctrl5 (オプションなど)

● CTCSS(トーンスケルチ)

CTCSSトーン周波数を60～254.1Hzから選択します。音声信号に選択したトーンを受信したときのみスケルチが開きます。

● DCS(デジタルコードスケルチ)

DCSコードを017～754(または all)から選択します。選択したコードを受信したときのみスケルチが開きます。

● CW Pitch(CWピッチ)

CWピッチを300～1100Hz(50Hzステップ)から選択します。モードがCWの場合のみ有効です。

● Auto Notch(オートノッチ)

ビート音やキャリア信号などを周波数が変動していても自動的に減衰させる機能です。感度を3段階から選べます。

● De-emphasis (デ・エンファシス)

S/N比を改善するため、高音域の振幅を抑制します。モードがWFMとFMの場合のみ有効。初期値：50μsec

● Noise Reduction(ノイズリダクション)

バックグラウンドノイズを低減して信号を浮かび上げられますが、音声信号をマスクしてしまうこともあります。了解度が最良になるように設定してください。

● NB(ノイズブランカ)

パルス性雑音を除去します。大気雑音など自然雑音には効果ありません。

● AFC

受信周波数を受信信号の中心からずれている場合に自動的に同調する機能です。

● DTMF

DTMFトーンが送信されていた場合にデコードした文字、数字、記号をMain Controlウィンドウに表示します。

● Voice Scrambler(秘話反転)

秘話反転音声デコードします。キャリア周波数は 2kHz～7kHzの範囲で [SETTING]-[OPTION]メニューで設定します。

● Presel(RF プリセレクション フィルタ)

受信回路の前段に挿入するフィルタは、目的のバンド外の強い信号による受信信号の抑圧を防ぐ効果があります。25MHz未満で使用できます。

● Video(ビデオ出力設定)

リアパネルのVIDEO OUT端子へのビデオ出力を有効にします。アナログビデオ信号のみデコード・表示できます。送信側のビデオ規格に適合するビデオディスプレイを接続する必要があります。

● Video IF Direction(ビデオ映像信号反転)

ビデオの映像信号を反転します。アナログワイヤレスカメラの映像信号を受信する際に反転することで受像できる場合があります。

● Line-in(Auto Recording)(自動録音)

チェックをつけること、実際に信号を受信したときに音声録音を開始します。このプログラムと同じフォルダにWAV形式ファイルで保存します。(ライン出力をPCのサウンドカードのライン入力に接続必要)
(SDカードに録音するには、[File]-[SD Card]メニューへ)

周波数を入力するには、テンキーの数字ボタンをクリックして数値を入力し、[kHz]または[MHz]ボタンをクリックして有効になります。入力の途中で最後に入力した数字を取り消すには、[CLR]ボタンをクリックします。

● Ctrl6 (周波数入力)

・ [Setting]-[Option]メニュー (オプション)

● Area (地域設定)

USA、JAPAN、EUROPEの中から選択することで、AUTOモードが選択した地域のバンドプランに対応します。

● Initialize Receiver

この操作はすべてのメモリ内容等を工場出荷時状態にリセットします。(注意：すべてのメモリ内容は消去されます。)

● Sleep Timer

[レ] Run にチェックをつけて、受信機の電源が切れるまでの時間(分単位、1～99)を入力します。(PCの時計により、[OK]ボタンを押してから時刻で判定します。)

● Priority Operation

プライオリティチャンネルのインターバル時間を変更できます。

● Squelch Hysteresis

スケルチのヒステリシスの深さを設定変更できます。

● PLL State

PLLの動作モードを表示しています。

● Ver.

受信機のファームウェアバージョンを表示しています。
● Create Clone File to SD Card
[Start]ボタンを押すと、受信機に挿入したSDカードにクローンファイルを保存します。(ファイル作成中は、数十秒間にわたりスペクトル等の表示が一時停止し、操作ができません。)

デュアルバンド受信

オフセット受信

設定保存